

水島港港湾計画資料

- 軽易な変更 -

平成 27 年 1 月

水島港港湾管理者
岡 山 県

目 次

．変更理由	1
．港湾施設の規模及び配置に関する資料	2
- 1 ．水域施設計画	2
．土地造成及び土地利用計画に関する資料	4
- 1 ．土地利用計画	4
．その他の資料	6
- 1 ．環境の保全に関する資料	6
- 2 ．地方港湾審議会名簿	8

．変更理由

- 1 船舶の大型化に対応するため、玉島地区において、水域施設計画を変更する。
- 2 企業活動の促進、積極的な土地利用の推進による臨海部の活性化を図るため、玉島地区において、土地利用計画を変更する。

・港湾施設の規模及び配置に関する資料

- 1 . 水域施設計画

(1) 概 要

船舶の大型化に対応した効率的な輸送の実現を図るため、泊地及び航路・泊地を計画する。

(2) 今回計画する泊地及び航路・泊地の規模及び配置

今回計画する泊地及び航路・泊地の規模及び配置は、表 -1-1 及び図 -1-1 に示すとおりである。

表 -1-1 泊地及び航路・泊地の規模及び配置

地区名	種別	水深 (m)	面積 (ha)	水深設定 の考え方	配置、法線及び 面積の考え方
玉島	既設の 変更計画	-10.0	泊地：0.3 航路・泊地：1.7	80,000DWT 級の 穀物船に対応	船舶が安全に係留 できるよう、係留施 設前面に配置し、必 要な面積を確保

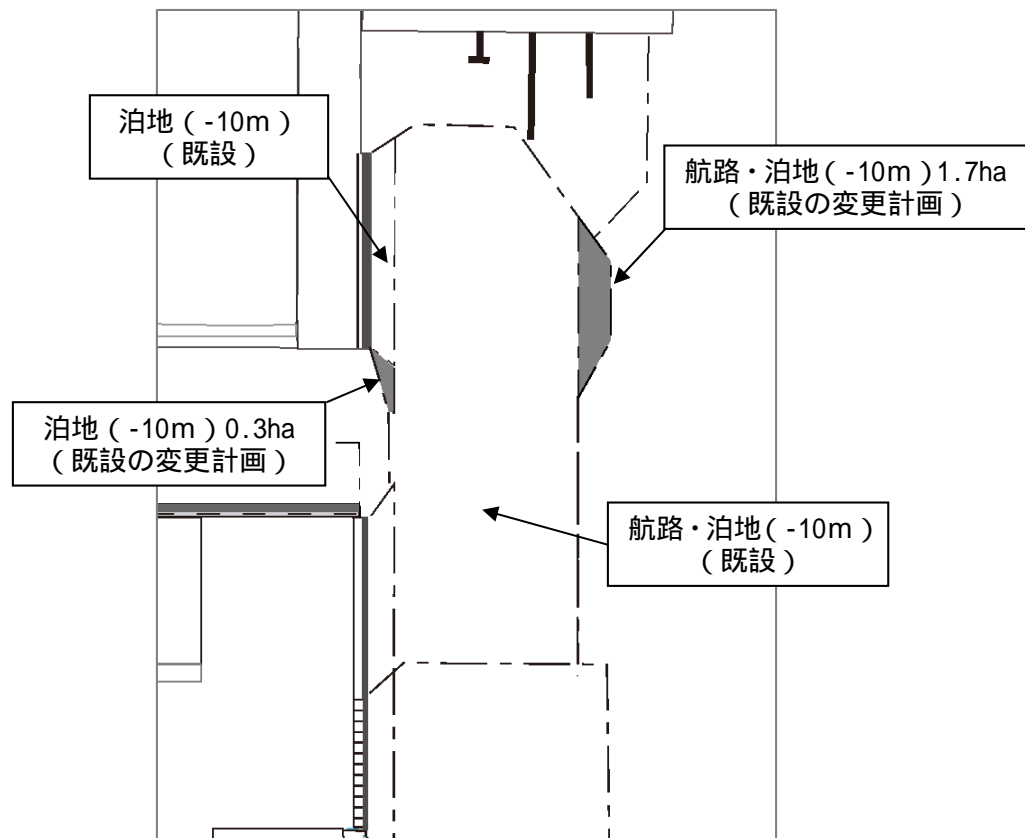
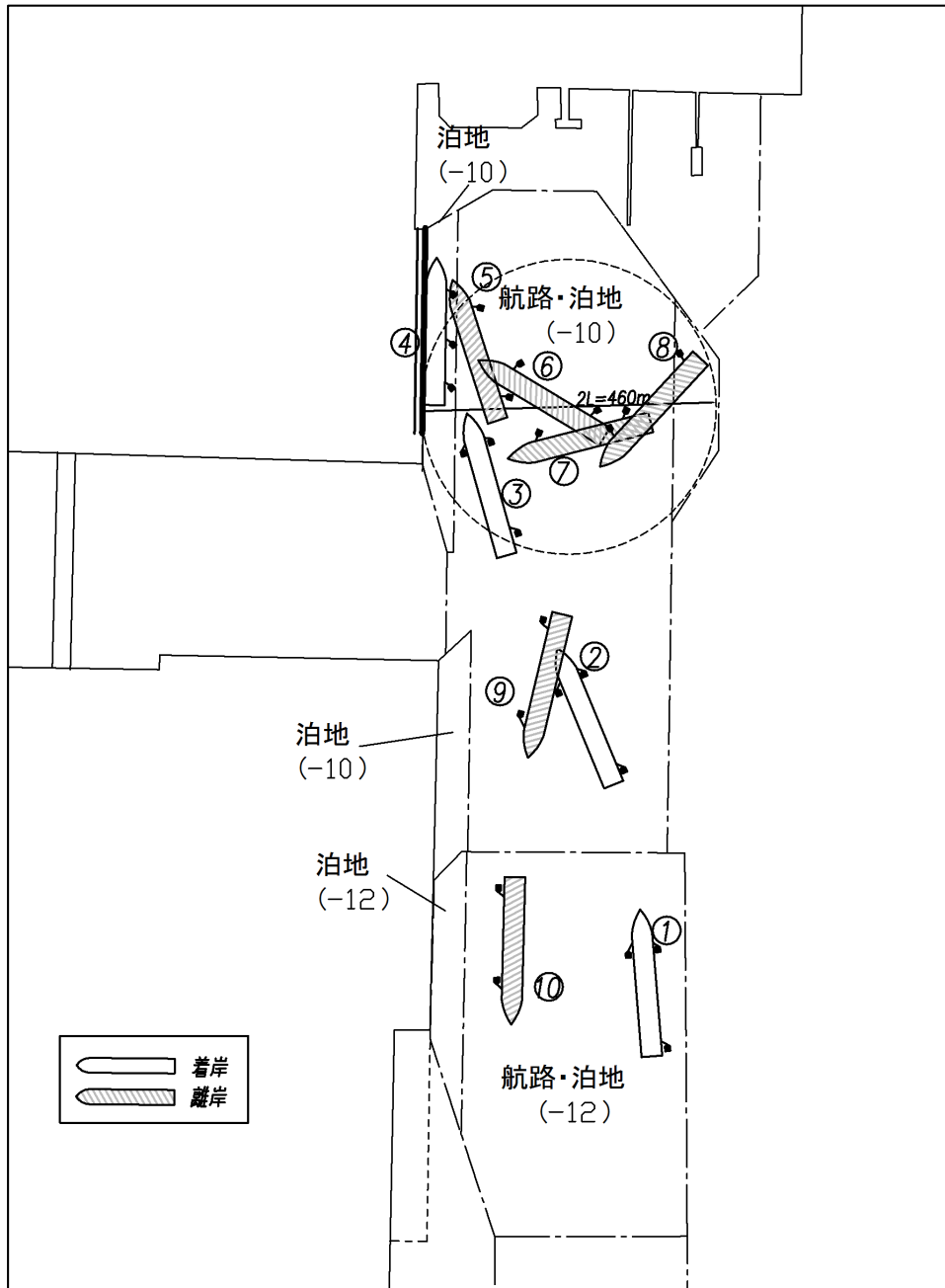


図 -1-1 泊地及び航路・泊地計画位置図

(3) 操船例図

操船例図は、図 -1-2 に示すとおりである。



注) 当該船舶はファーストポートでの入港は行わないため、満載での接岸は想定していない。

トン数 (DWT)	全長 (m)	型幅 (m)	満載喫水 (m)
80,000	230	32	12.7

図 -1-2 操船例図

．土地造成及び土地利用計画に関する資料

企業活動の促進、積極的な土地利用の推進による臨海部の活性化を図るため、土地利用計画を次のとおり計画する。

- 1 . 土地利用計画

土地利用を次のとおり計画する。

表 -1-1 土地利用計画（今回計画）

（単位：ha）

用途 地区名	埠頭 用地	港湾 関連 用地	工業 用地	都市 機能 用地	交通 機能 用地	緑地	合 計
	玉島	(105.2) 105.2	(65.6) 65.6	(293.9) 293.9	 17.8	(16.3) 16.3	(54.0) 54.0

注1 ()は、港湾の開発、利用及び保全並びに港湾に隣接する区域の保全に特に密接に関連する土地利用計画で内数である。

注2 今回の変更に係る地区についてのみ記述した。

既定計画

表 -1-2 土地利用計画

（単位：ha）

用途 地区名	埠頭 用地	港湾 関連 用地	工業 用地	都市 機能 用地	交通 機能 用地	緑地	合 計
	玉島	(105.2) 105.2	(80.2) 80.2	(279.3) 279.3	 17.8	(16.3) 16.3	(54.0) 54.0

注1 ()は、港湾の開発、利用及び保全並びに港湾に隣接する区域の保全に特に密接に関連する土地利用計画で内数である。

注2 今回の変更に係る地区についてのみ記述した。

表 -1-3 変更後の土地利用計画

地区名	変更前		変更後		変更理由
	土地利用	面積	土地利用	面積	
玉島	埠頭用地	105.2	埠頭用地	105.2	臨海部への企業誘致を促進するため、土地利用計画の一部を変更する。
	港湾関連用地	80.2	港湾関連用地	65.6	
	工業用地	279.3	工業用地	293.9	
	都市機能用地	17.8	都市機能用地	17.8	
	交通機能用地	16.3	交通機能用地	16.3	
	緑地	54.0	緑地	54.0	
	合計	552.8	合計	552.8	

< 変更前 >

< 変更後 >

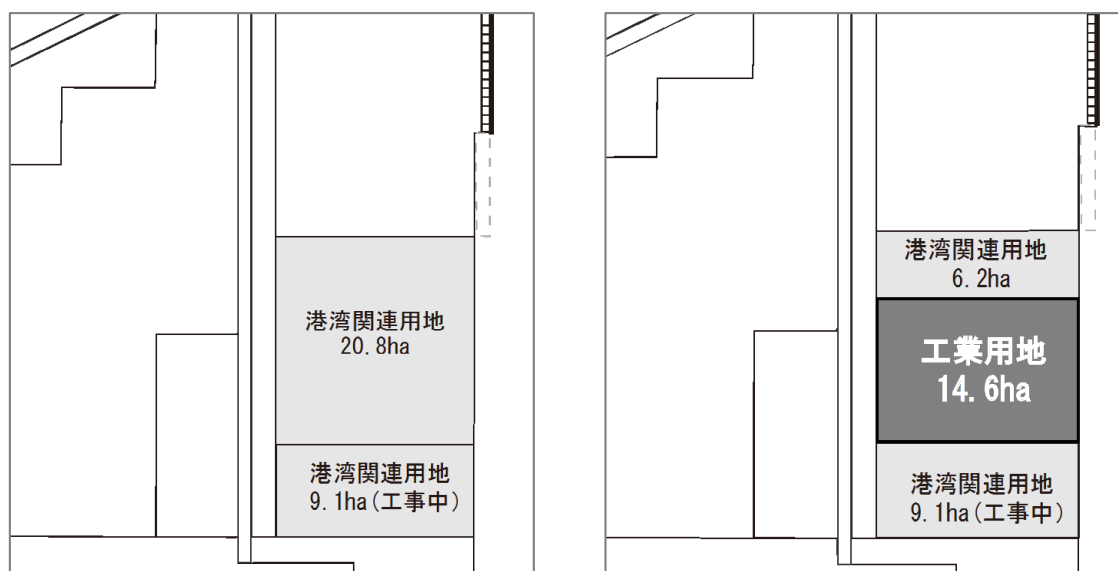


図 -1-1 土地利用計画（玉島地区）

．その他の資料

- 1 ．環境の保全に関する資料

(1) 基本方針

今回計画が周辺環境に与える影響と評価は、以下に示すとおり選定項目ごとに予測・評価を実施した。

1) 項目の選定

項目の選定については、表 -1-1 に示すとおりである。

表 -1-1 項目の選定

環境要素の区分		項 目	選定理由等
大気環境	大気質	二酸化窒素	今回計画の内容により選定した。
	騒音	道路交通騒音	
	振動	道路交通振動	
水環境	水質	水の汚れ	
生物	生物	海生生物	
		陸生生物	
		鳥類	
	生態系	生態系	

2) 予測及び評価の考え方

予測及び評価の考え方については、表 -1-2 に示すとおりである。

表 -1-2 予測及び評価の考え方

環境要素の区分		予 測	評価
大気環境	大気質	今回計画に定められる事項による環境への影響を考慮し、定性的に予測した。	今回計画により周辺環境へ著しい影響を及ぼさないこと。
	騒音		
	振動		
水環境	水質		
生物	生物		
	生態系		

(2) 環境への影響と評価

1) 大気質への影響と評価

本計画変更に伴う自動車交通量の増加はごく僅かであることから、今回計画が大気質に及ぼす影響は軽微であると考えられる。

2) 水質への影響と評価

本計画変更に伴い、泊地及び航路・泊地を浚渫することにより、海底の一部を改変することになる。そのため、潮流の変化による水質の変化が考えられるが、港内全体からみた浚渫範囲はごくわずかであり、潮流の変化に大きな影響を及ぼすことは考えられないことから、水質に及ぼす影響は軽微であると考えられる。

3) 騒音への影響と評価

本計画変更に伴う交通量の増加はごく僅かであることから、今回計画が騒音に及ぼす影響は軽微であると考えられる。

4) 振動への影響と評価

本計画変更に伴う交通量の増加はごく僅かであることから、今回計画が振動に及ぼす影響は軽微であると考えられる。

5) 生物への影響と評価

本計画変更に伴う大気質及び水質への影響が軽微であると予測されることから、今回計画が海生生物、陸生生物及び鳥類に及ぼす影響は軽微であると考えられる。

6) 生態系への影響と評価

本計画変更に伴う生物への影響が軽微であると予測されることから、今回計画が生態系に及ぼす影響は軽微であると考えられる。

(3) 総合評価

今回計画が周辺環境に与える影響について評価を行った結果、本計画変更に伴う周辺環境への影響は軽微であると考えられる。

なお、今回計画の実施にあたっては、事業者に対し、工法、工期等について十分に検討し、十分な監視のもとに環境に与える影響を小さくするよう配慮し、慎重に実施するよう要請するものとする。

- 2 . 地方港湾審議会名簿

岡山県地方港湾審議会水島港部会委員名簿

平成27年1月21日現在（敬称略、順不同）

1 学 識 経 験 を 有 す る 者

千葉 喬三	学校法人 就実学園 理事長
井上 欣三	国立大学法人 神戸大学 名誉教授
菅 浩伸	国立大学法人 九州大学大学院 教授
山本 幸子	山本幸子一級建築士事務所 建築士
片山 浩子	一般社団法人 中国地域ニュービジネス協議会 副会長
金澤 寛	独立行政法人 港湾空港技術研究所 顧問
木村 玲子	日本貿易振興機構（ジェトロ）岡山貿易情報センター 所長

2 港 湾 関 係 者

岡崎 彬	岡山県商工会議所連合会 会長
奥野 雄二	岡山県漁業協同組合連合会 会長
小坂 貞昭	岡山地区旅客船協会 会長
森岡 衛	内海水先区水先人会 副会長
村瀬 勇人	中国地方港運協会 副会長
末長 範彦	岡山県倉庫協会 会長
久本 久治	岡山県船主協議会 理事長
荻山 淳	全日本海員組合尾道支部 支部長

3 市 町 村 を 代 表 す る 者

伊東 香織	倉敷市長
-------	------

4 県 議 会 の 議 員

神宝 謙一	岡山県議会議員
加藤 浩久	岡山県議会議員

5 関 係 行 政 機 関 の 職 員

寄高 真澄	財務省 神戸税関 水島税関支署長
尾藤 勇	国土交通省 中国地方整備局長
秦 日出海	国土交通省 中国運輸局 岡山運輸支局長
末田 和也	海上保安庁 第六管区海上保安本部 水島海上保安部長 水島港長